

情勢報告（平成27年6月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

仁淀川流域から6次産業化を推進！お山の茶明郷園の紅茶が県内最高級ホテルで提供される



有名紅茶との飲み比べによる
「紅」のプレゼンテーション

6月23日、6次産業化推進事業により「お山の茶明郷園」が城西館で紅茶「紅」の営業活動を行いました。城西館から物販担当者2名、明郷園3名、アドバイザー、地域農業推進課、高吾農改2名が参加し、「紅」と世界的有名紅茶との飲み比べや商品説明を行いました。その結果、有名紅茶と比べても劣らない味であり、県内産で希少な茶葉を使用していることから、「紅」に高い評価が得られ、喫茶店の紅茶はすべて「紅」に切り換え、土産品店でも販売することが決定しました。また、城西館での販売促進活動に明郷園が協力することで合意しました。

普及所では、茶の生産振興のため、今後もお山の茶明郷園の販売活動に協力していきます。

仁淀川町における「提案型」新規就農者確保の取り組み状況



シキミほ場を巡回・確認

仁淀川町では、新規就農者確保に向け、茶＋シキミの複合経営による就農希望者を募集していますが、両作物とも収穫開始までに数年かかることから、就農時の園地確保が問題になると考えられます。そこで、5月29日に生産者の協力を得ながら、役場と合同でシキミほ場の場所や生産者、栽培系統等の情報収集を行いました。

また、提案書からの就農問い合わせが6月9日にあり、役場と連携して、ほ場案内や品目の特性、就農までの流れなどについて説明しました。今回、農業は全くの素人ということで、担い手育成センターの「アグリスクール」への参加を検討することになりました。

普及所では、今後も担い手協議会での受入体制整備支援、相談対応等を行っていきます。

環境制御技術で冬期の出荷量アップ



環境制御技術講習会

6月19日、JAコスモスニラ生産部を対象に環境制御技術講習会を開催し、施設栽培農家18名が参加しました。

会では冬期の高単価期に出荷量を増やし、所得向上を目指した新技術に関する講習を行いました。炭酸ガス施用技術や関連する補助事業について産地・流通支援課から説明があり、普及所は電照栽培の考え方や先進地事例等について紹介しました。参加者からは冬期に収量が増えるので「是非やってみたい」という声がありました。

普及所は、炭酸ガス施用による栽培実証を実施するとともに、導入希望農家には施用装置の設置方法や施用方法などについて技術支援をしていきます。

薬用作物「ミシマサイコ」が順調に生育しています



6月の生育状況

ミシマサイコはセリ科ミシマサイコ属の薬用作物で、乾燥させた根が漢方として利用されています。高知県では昭和51年から栽培されていますが、特に近年では中山間地域の冬場の換金作物として期待が高まっています。

今年のミシマサイコの生育は、播種後に適度な降雨があったこともあり、発芽状況が良く、その後も順調に生育しています。

普及所では、梅雨時期の病害防除、梅雨明け後の害虫防除について指導し、ミシマサイコの生産振興に努めていきます。

腐敗対策会議で市場事故「0」に



そぐり方法の徹底

6月19日、J Aコスモスニラ生産部の腐敗対策会議が開かれ、栽培農家31名が参加しました。
会議では園芸連からの市場事故報告に続いて、J Aからそぐり作業の注意点について説明がありました。
普及所からは、品質低下の要因からそぐりの徹底や適正施肥の重要性、G A P点検の取り組みの必要性について説明しました。参加者からは「4枚まできちんとそぐろう」などの声がありました。
普及所は、部会、J Aと連携し、G A P点検結果を集計し、月例会等を通して生産者の意識を高め、市場事故防止対策をすすめていきます。

J A コスモス茶生産部会が茶摘みツアーを開催



楽しく茶摘み

6月13日、J Aコスモス茶生産部会が、仁淀川町沢渡地区で3回目になる茶摘み・製茶体験ツアーを開催しました。高知市を中心に14名の参加者が、約8kgの茶葉を手摘みし、釜炒りや手揉みなど製茶体験を楽しみました。参加者からは「初めての茶摘みや製茶で楽しかった。お茶になる工程がよくわかりました。」との声が聞かれ、谷脇洋輔副部長からは「この体験ツアーで14名が参加してくれたのは、とてもうれしい。多くの方に茶を生産現場から知ってもらい、仁淀茶を愛飲してほしい。」と挨拶がありました。
普及所は、このツアーに計画から参画し、参加者の募集や茶摘み等の技術を指導しました。今後も、仁淀茶のファン獲得のために産地を支援していきます。

露地・雨よけピーマンの現地検討会が開催される



順調な生育のほ場

6月3日、佐川町斗賀野地区の露地・雨よけピーマン（品種：京ゆたか）の目慣し会及び現地圃場での勉強会を、栽培者全12戸の参加により実施しました。
普及所からは、接ぎ木苗の特徴と樹作りのため摘果の必要性について、また、今年は尻腐れ果が近年になく多いため、その発生要因と今後の対策について指導しました。
今後、果実を食害する夜蛾類の発生についての情報や施肥管理などの遅れがないか、個別巡回を中心に指導し、品質向上・安定生産につなげていきます。